

# 親父が認知症に!?

## 平藤清刀さんの介護体験記 #11

転院の手続きをする際

### ■延命措置は 望まないこと

転院先は認知症の患者を受け入れている精神病院でした。未だに芳しくないイメージをもたれがちな精神病院ですが、実際にはしっかりした体制で安心しました。歯ブラシ一本でさえ新品と交換するに際しても、家族に逐一報告を入れてくれまじ、父が風邪をひいて薬を増やす際にももちろん連絡をいただきました。その丁寧さ懇切さはむしろこちらが恐縮するほどで、患者の人権が軽視されたり虐待的な扱いを受けたりするイメージとは程遠いものでした。

転院の手続きをする際に、私は一枚の書類に署名捺印しました。それは「延命措置を望まない」という意思表示でした。

理由は2つあります。ただ命を承らえて苦しみを長引かせたくないこと。もうひとつは金銭的に余裕がなく、回復する望みのない処置を続けることで家族が共倒れになることを避けたかったのです。冷淡なようですが、万が一のときでもすでに天寿をまっとうできたとと言える年齢になっていましたし、家族が共倒れになった後のことを考えると「生きてくれてさえいればいい」という

(誤解や非難を承知の上で書きますが) 感傷に浸れる心境にはなれませんでした。

前述したように転院先で懇切丁寧なケアを受けられたおかげで、父はまもなく排尿と排便は自力で行えるまでに回復しました。ただし自分でトイレへ行くには至らず、オムツは欠かせません。あくまで管を通したり浣腸をしたりして、強制的に出さなくても済むようになったという状態でした。

そして体力も少しばかり回復してきたのか、ベッドから起き上がって病棟内をウロウロ歩き回るようになりました。

(次回に続く)